

ASCC 13th
Asia
Smart City
Conference

第13回アジア・スマートシティ会議

2024.10.22 [火] - 24 [木] || パシフィコ横浜ノース



開催概要 2

- アジア・スマートシティ会議について
- 今回の特徴
- 概要
- プログラム
- キービジュアル・ロゴについて

開催結果 6

- DAY1 BLUE STAGE
 - GREEN STAGE
- DAY2 BLUE STAGE
 - GREEN STAGE
- ブース出展
- ビジネスネットワーキング/アトラクション
- 会場装飾

プレカンファレンスイベント「都市インフラ施設見学会」 24

成果文書及び主な参加者情報 32

- ASCC2024横浜宣言
- 賛同都市・機関一覧
- 参加国一覧
- 登壇者一覧
- アンケート結果
- GALERIO企画委員会



開催概要



第13回アジア・スマートシティ会議 開催概要

■アジア・スマートシティ会議について

アジア・スマートシティ会議 (Asia Smart City Conference) は、アジア諸都市、政府機関、国際機関、学術機関及び民間企業等の代表者が一堂に集まり、経済成長と良好な都市環境が両立する持続可能な都市づくりの実現に向けた議論を行う国際会議です。

各都市の代表者から提示される都市課題や成長へのビジョン、民間企業や学術機関による革新的ソリューションの提案、公民連携を資金面で支援する国際機関の施策など、世界の様々な知見（ベストプラクティス）が共有され、参加者が新しいビジネスチャンスを発見できる場も提供しています。

■今回の特徴

13回目となるアジア・スマートシティ会議では、「脱炭素」をテーマに、アジアの都市、国際機関、企業、学生など国内外の多様なステークホルダーが集い、持続可能なグリーン社会の実現に向けた課題や成長へのビジョン、先進的な技術によるソリューションを共有しました。

■概要

[日時] 2024年10月22日(火)～24日(木)

[参加人数(延べ人数)] 2,200名超

[会場] パシフィコ横浜ノース

[横浜宣言] 39都市・機関賛同、6国際機関等立合

[主催] 横浜市

[ブース出展] 46者

[共同運営者(50音順)] アジア開発銀行研究所(ADB I)
世界銀行東京開発ラーニングセンター(世界銀行TDLC)

[参加国] 46か国

[後援] 内閣府/外務省/財務省/経済産業省/国土交通省/
環境省/CITYNET /国際農業開発基金(IFAD) /
国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所

[協賛企業] 7社

古河電池株式会社/
株式会社京三製作所/キリンホールディングス株式会社/
石井造園株式会社/株式会社大川印刷/
株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ/株式会社横浜銀行

[テーマ] Asian Cities Together for a Greener Future
アジアの都市と共にグリーンな未来へ

 古河電池

 KYOSAN

よろこびがつなぐ世界へ
 KIRIN

 石井造園株式会社

 大川印刷
OHKAWA PRINTING, SINCE 1881

 T&G TAKE and GIVE NEEDS

 横浜銀行

[海外都市と国内企業間のビジネス交流] 約1,100件

[セッション数] 18セッション

[スピーカー数] 99名

■プログラム

第13回会議では、「脱炭素」をテーマに世界銀行やアジア開発銀行などのご協力を得て、国内外から2,200人を超える多くの皆さまが参加くださいました。

会議に参加した39の海外都市・政府機関等にご賛同いただき、アジアのグリーン社会の実現に向けた横浜宣言を行うなど、大変実りある機会となりました。

日時		プログラム	
10月22日(火)	12:30-17:30		プレカンファレンスイベント 都市インフラ施設見学会
10月23日(水)	10:00-10:30	BLUE STAGE	オープニングセッション
	10:40-11:30	BLUE STAGE	GREEN×EXPO 2027セッション ～「幸せを創る明日の風景」の実現に向けて～
	10:40-12:00	GREEN STAGE	アジアの都市によるリバーズピッチ／日本企業によるビジネスピッチ ～都市課題の解決に向けたビジネスマッチング～
	11:40-12:00	BLUE STAGE	ビジネスキーノート
	13:10-15:10	BLUE STAGE	港湾都市の脱炭素化
	13:10-13:55	GREEN STAGE	次世代エネルギーの活用による脱炭素イノベーションの創出
	14:05-14:50	GREEN STAGE	E Vは本当に実用的なのか ～モビリティの2030年を考える～
	15:00-16:00	GREEN STAGE	市内および海外大学の学生による都市課題解決戦略の共同提案発表 ～インフォーマル市街地におけるレジリエンス～
	15:30-17:00	BLUE STAGE	JICAセッション 最前線にて～気候変動対策、そして前へ～
10月24日(木)	16:15-17:15	GREEN STAGE	ウェルビーイングを向上する都市デザイン
	10:00-12:00	BLUE STAGE	強靱でグリーンな都市づくり～海外に学び做うソリューション～
	10:00-10:30	GREEN STAGE	スペシャルキーノート「脳と人工知能、地球環境の間のアラインメントの未来」
	10:40-11:25	GREEN STAGE	横浜発！半導体オープンイノベーションの可能性
	11:30-12:00	GREEN STAGE	アジアのサーキュラーエコノミーハブとしての横浜の可能性
	13:10-14:10	GREEN STAGE	アフリカビジネスセッション Business with Africa: current and future potential
	13:10-15:10	BLUE STAGE	シティネットSDGs分科会セミナー2024 SDGsと気候変動対策のシナジー～シティネットのネットワーク活用に向けて～
	14:30-15:10	GREEN STAGE	ユースセッション(ヨコハマ未来創造会議×IFAD Youth Club) Our Future is Here ～気候危機に共に立ち向かう～
	15:20-16:30	BLUE STAGE	クロージングセッション 都市が牽引する新たなグリーン社会の実現～アジア・スマートシティ会議が果たす役割～

出展ブース
ビジネスネット
ワーキング
アトラクション

■キービジュアル・ロゴについて

第13回会議にあわせ、キービジュアル・ロゴを新たに設定しました。



[キービジュアル・コンセプト]

緑＝大地、青＝空、水色＝水 を表しています。

世界中から集まった人々により交わされる
多様性あふれる議論＝吹き出しは、
昇華され、新たな提言となります。

提言はカモメが運び、
海を超え、言語を超えて、
横浜から世界中へ広がっていきます。

[ロゴ]

略称であるASCCをシンプルかつ
印象的にデザインしたロゴになります。



開催結果



オープニングセッション

第13回アジア・スマートシティ会議の開会にあたり、主催者である横浜市の山中市長の挨拶に続き、共同運営者である世界銀行のアンヘリカ・ヌニェス氏、アジア開発銀行のラメシュ・スブラマニウム氏にスピーチをしていただきました。また山中市長が脱炭素をはじめ持続可能なグリーン社会の実現に向けた横浜市の施策を紹介しました。

【オープニングスピーカー】 横浜市長 山中 竹春

【スピーカー】 世界銀行 都市・防災・強靭性・土地グローバルプラクティス グローバルプログラムユニット

プラクティス・マネージャー アンヘリカ・ヌニェス氏

アジア開発銀行(ADB) セクターグループ局長 ラメシュ・スブラマニウム氏



GREEN×EXPO 2027セッション ～「幸せを創る明日の風景」の実現に向けて～

SDGs達成やグリーン社会の実現を先導するため、「Nature-based Solutions」＝自然の力を活用した解決策という考え方のもと、「幸せを創る明日の風景」をテーマとしたA1クラス（最上位）の国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」が、2027年3月より横浜で開催されます。本博覧会は、私たちの生活に大きな影響をもたらす気候変動に着目した、環境と共生し、皆様と共につくる国際園芸博覧会であり、圧倒的な花と緑で皆様をお迎えするとともに、グリーンイノベーションによる新しい社会のショーケースを目指しています。本セッションでは、本博覧会が掲げる問題意識を踏まえ、企業、アカデミア等様々な視点から、知見やEXPOに参画いただくことで広がる可能性・つながりを共有しました。

【モデレーター】 公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 企画調整部長 清瀬 一浩氏

【スピーカー】 一般社団法人SWITCH 代表理事 佐座 槇苗氏

三菱地所株式会社 執行役常務 竹田 徹氏

東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 橋本 禅氏



ビジネスキーノート

平成 27 年度から横浜市と連携協定を締結し、持続可能な社会を目指した取組を推進している世界最大級のホームファニッシングカンパニー、イケアの日本法人であるイケア・ジャパン株式会社。イケアは、2030 年を目標としたサステナビリティ戦略「ピープル・アンド・プラネット・ポジティブ」を策定し、「健康的でサステナブルな暮らし」、「サーキュラー&クライメートポジティブ」、「公正&平等」の3つのテーマに焦点をあて、より持続可能な環境と社会の実現に取り組んでいます。

本ビジネスキーノートでは、それらの取組について、お話しいただきました。

【スピーカー】 イケア・ジャパン株式会社代表取締役社長 兼 CSO ペトラ・ファーレ氏

代理登壇： IKEA Japan Country Communication manager 加藤 明子氏





港湾都市の脱炭素化

港湾は地域経済の活性化に寄与する一方、気候変動対策という世界的な課題への取組においても重要な役割を担っています。港湾都市では、再生可能エネルギーへの転換、運営システムのデジタル化・自動化による業務効率の向上、緑地開発といった取組が近年進められています。しかし、強靱で環境的に持続可能な港湾都市を構築するには、政府、民間セクター、国際機関の協力を通じたグリーン技術やインフラへの更なる財政投資が不可欠です。本セッションでは、横浜市を含むアジアの主要港湾を有する都市が、港湾と港湾都市の脱炭素化のためのソリューションやグッドプラクティスを紹介し、政策提言について議論しました。

[イントロダクション] アジア開発銀行研究所 キャパシティビルディング&トレーニングエコノミスト ジョイ・ブレッシルダ・シナイ氏

[モデレーター] アジア開発銀行 シニア地域海事専門家 R. ダンカン・マッキントッシュ氏

[パネリスト] シンガポール国家開発省住みやすい都市センター(CLC) 研究部長 エレイン・タン氏

インド港湾・海運・水路省 調整局第2部部長 ムリティウンジャイ・ジャー氏

スリランカ コロンボ・ポートシティー経済委員会 エンジニアリング部長 H.C.J. ティラカラトネ氏

アジア開発銀行チーフエコノミスト室 アドバイザー経済調査・開発影響局長 イェシム・エルハン=カヤラル氏

ジャカルタ首都特別州地域開発計画庁 経済部長 フェイルリー・イリザル氏

横浜市港湾局政策調整部長 林 総



Key point

- 再生可能エネルギー、電化、およびデジタル技術の統合に焦点を当て、排出削減と運営効率の向上を目指す先進的な港湾都市におけるベストプラクティスおよび事例が紹介されました。
- グリーン SHIPPING 回廊、グリーン水素ハブ、スマートポートシステムなど、革新的な取り組みが共有されました。
- 港湾都市における環境改善を確保するため、廃棄物管理、生物多様性の向上を目的とした植林、グリーンビルディング基準の導入、緑地の創出といった持続可能な都市開発の実践の重要性も強調されました。
- 港湾都市および広範な都市開発における課題について議論し、ヒートアイランド現象、大気汚染、限られた資金調達に対する高額なプロジェクトコストなどが挙げられました。
- 国家政府や国際機関からの財政支援、民間セクターの投資、技術交換や金融協力を推進する国際的な枠組みの確立の必要性についても提議されました。



アジア諸都市が都市課題の解決と持続可能な都市づくりを推進する上で、地球温暖化への緩和策や適応策などClimate Solutionsの視点は不可欠です。本セッションでは、日本の国際協力70周年の節目の年にODAが果たしてきた役割を振り返りつつ、持続可能なグリーン社会の実現に向けて共に行動していくスターティングポイントとなるよう、都市、企業、政府機関、JICAが気候変動対策を進めていく上での課題と解決策を議論しました。

[モデレーター] 一般社団法人海外環境協力センター 理事 加藤 真氏

[スピーカー] 独立行政法人国際協力機構地球環境部 部長 森田 隆博氏

独立行政法人国際協力機構地球環境部 次長/環境管理・気候変動対策グループ長 柴田 和直氏

太平洋地域環境計画事務局/太平洋気候変動センター

気候資金・レディネス・アドバイザー パティソン・シホ・フレッド氏

オオスミベトナム株式会社 社長 米田 善治氏

ダナン市天然資源環境局 海・島・環境庁 副庁長 ファム・ティ・チン氏

バンコク都環境局 副局長 ウォラヌック・スアイカカオ氏

横浜市国際局グローバルネットワーク推進部長 富岡 典夫



Key point

- アジア大洋州の都市課題の解決と持続可能な成長の両立に向け、JICAからは各国で行ってきた気候変動対策に関わる計画策定や能力強化支援などを紹介しました。
- 各都市や企業からは、市内で進めている脱炭素の取組や都市間の協力事例、ベトナムに進出しGHG排出削減に取り組んでいる横浜市内企業の事例などを紹介しました。
- 2050年のカーボンニュートラルの達成を目指し、様々なステークホルダーが互いの知見・技術を共有し連携して行動していくことが確認されました。



アジアの都市によるリバーズピッチ/ 日本企業によるビジネスピッチ ～都市課題の解決に向けたビジネスマッチング～

経済成長が著しいアジアの市場。多くの日本企業が関心を寄せる一方、アジアの諸都市においては急激な都市化の進展や都市部への人口集中などにより、都市問題などの解決に向けたニーズが高まっています。本セッションでは、インフラや省エネルギー等、脱炭素分野を中心に都市が抱える共通課題の解決に向け、複数のアジアの都市が自らの都市課題を発表し、日本企業がソリューションやアイデアを提示しました。あわせて、多くの都市と経験・知見の共有を進め、脱炭素化を促進すべく、OECDが横浜市の脱炭素に関する取組を分析していただきました。

【モデレーター】 株式会社An-Nahal 代表取締役 品川 優氏

【スピーカー】 経済協力開発機構（OECD） 松本 忠氏

登壇都市：ラウニオン州サンフェルナンド市（フィリピン）、マダウエ市（フィリピン）、プノンペン市（カンボジア）、サンカルロス市（フィリピン）、バリクパパン市（インドネシア）

登壇企業：株式会社京三製作所、J F E エンジニアリング株式会社、株式会社村田製作所、サントモ・リソース株式会社、カナデビア株式会社（旧・日立造船株式会社）



次世代エネルギーの活用による脱炭素イノベーションの創出

カーボンニュートラルの実現に向けては、省エネや電力の再エネ化を進めるとともに、水素等の次世代エネルギーの活用や新たな脱炭素イノベーションの創出が期待されます。横浜市では、エネルギー関連産業、製造業、物流等が集積する臨海部を中心に、水素、アンモニア、e-methaneなどの次世代エネルギーに関する研究開発や実証が進められています。昨年度には、次世代エネルギーの需要創出・供給拡大や脱炭素に資する先進的な技術の研究開発に向けた連携を図るため、多様な市内企業・団体や学識経験者等から構成する「横浜脱炭素イノベーション協議会」を設立しました。

本セッションでは、協議会会員でもある企業等から、先進的な技術やナレッジを共有しました。

【モデレーター】 INNOVEDIA代表、経済ジャーナリスト 内田 裕子氏

【スピーカー】 千代田化工建設株式会社フロンティアビジネス本部本部長補佐 兼戦略統合本部経営企画部技術戦略室室長 八木 冬樹氏

東京ガス株式会社水素・カーボンマネジメント技術戦略部革新的メタネーション技術開発グループマネージャー 高橋 徹氏

横浜市脱炭素・GREEN×EXPO推進局カーボンニュートラル事業推進課長 松下 功





E Vは本当に実用的なのか ～モビリティの2030年を考える～

脱炭素に向けたグローバルな取組が進む中、大きな転換期を迎えている自動車業界。電気自動車(EV)の開発に伴い選択肢が広がり、世界的にEV普及率は高まっています。日本でもマイカーを中心にEVの販売シェアが伸び、付随インフラである充電器の導入拡大も求められています。あわせて、マイカーに比べてハードユースであるバスやトラックなどの商用車についてはEV化が進展しておらず、モビリティ領域全般のEV化に向けた課題となっています。

本セッションでは、世界のモビリティの最新動向に加え、EVのインフラ分野での企業の取組なども交え、EVの可能性をディスカッションを行いました。

【モデレーター】 The Drivery Japan モビリティ・イノベーション・アナリスト 近藤 敦氏

【スピーカー】 自動車ジャーナリスト/環境ジャーナリスト 川端 由美氏

GO株式会社 執行役員 GX事業本部 本部長 佐々木 将洋氏



市内および海外大学の学生による都市課題解決戦略の共同提案発表 ～インフォーマル市街地におけるレジリエンス～

2024年夏、横浜市立大学学生は、フィリピンのフィリピン大学、及びインドネシアのハサヌディン大学との共同で、災害リスクの高いインフォーマル市街地におけるレジリエンスのある安全なコミュニティ構築をテーマに、フィリピン大学ディリマン校でワークショップを実施しました。本セッションでは、ワークショップの成果をもとに、参加学生が都市の未来に向けた持続可能な発展・成長のための洞察と提案を発表しました。また、JICA職員がリアクターとして参加し、国際協力及び都市開発の実務の観点から、助言を行うとともに、学生との意見交換を行いました。

【モデレーター】 横浜市立大学大学院 都市社会文化研究科 教授 /

グローバル都市協力研究センター まちづくりユニット ユニットリーダー 中西 正彦氏

横浜市立大学 グローバル都市協力研究センター 特任助教 北原 麻理奈氏

【スピーカー】 横浜市立大学 学生 8名

【リアクター】 JICA 社会基盤部 都市・地域開発グループ第二チーム 調査役 水上 貴裕氏

JICA 社会基盤部 都市・地域開発グループ第二チーム ジュニア専門員 秋葉 拓哉氏





ウェルビーイングを向上する都市デザイン

都市デザインがどのように市民のウェルビーイングに貢献することができるのか。横浜と韓国を先端事例として、市民のウェルビーイング向上を目指す公共空間やサイバー空間のあり方について議論しました。

ビッグデータの時代においては、ウェルビーイング指標の分析を基に「幸福の因子」にめがけて政策をデザインする必要性を強調しました。さらに今日のデジタルの時代において、地方にてメタバースやSNSなどのテクノロジーを地域のインフラとして整備することで、住みやすさを維持しつつ多様な人々とのつながりを生み出し、都市部との格差をなくした教育や生活環境の提供が可能であるとの提案がありました。

今後、日韓両国が若者を巻き込みながら共通の文化を共有し議論する場を設けることで、二国間の協力の機会を増やし魅力的な未来につながるという展望が示されました。

[モデレーター] 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事/横浜市立大学 特任教授 **南雲 岳彦氏**

[スピーカー] 横浜市立大学 医学群教授・研究・産学連携推進センター 拠点事業推進部門長 **宮崎 智之氏**

世界銀行 業務担当官 **三木 はる香氏**

延世大学 教授 **イ・ジョンフン氏**





強靱でグリーンな都市づくり ～海外に学び倣うソリューション～

都市には世界人口の約半数が集中し、約70%の温室効果ガスを排出しており、都市が課題解決の最前線に立つことはとても重要です。本セッションでは、インドネシア・ウズベキスタン・パキスタンの各都市の実務者を招き、それぞれの都市での強靱でグリーンな都市の実現に向けた議論を行いました。都市の住みやすさ、持続可能性、強靱性を促進するために必要な政策手段や実現に向けた課題について各都市/国際機関の事例が紹介され、参加者・登壇者の中で活発に議論が交わされました。

[モデレーター] 世界銀行 東京開発ラーニングセンター 上級都市専門官兼チームリーダー クリストファー・パブロ氏

世界銀行 東京開発ラーニングセンター プログラムオフィサー 俵 渉子氏

[スピーカー] 世界銀行 都市・防災・強靱性・土地グローバルプラクティスグローバルプログラムユニット

プラクティス・マネージャー アンヘリカ・ヌニェス氏

インドネシア国 パル市 市長 ハディアント・ラシード氏

ウズベキスタン タシケント市 デジタル開発局分析センター 副所長 テミュール・イブラギモフ氏

ウズベキスタン サマルカンド地域投資・産業・貿易省 局長 スルムカマンド・コシモブ氏

パキスタン パンジャブ州政府開発計画委員会 環境・気候変動 主任 サバ・アスガール・アリ氏



Key point

- 脱炭素化やレジリエンス強化をテーマに、再生可能エネルギーやデジタル技術の活用、市民参加型の取組を通じた持続可能な都市づくりの成功事例と知見が共有されました。
- パル市からは災害後の強靱な都市復興が、タシケント市からはデジタル技術の活用による都市環境改善の取組が、サマルカンド市からはグリーンなインフラ整備による持続可能な都市開発が、そしてパンジャブ州からは森林破壊問題に対処する世界最大級の人工林の取組が、各都市の課題を背景にした解決策として紹介されました。
- 気候変動や急速な都市化への対応が共通の課題となっており、国境を超えた議論と協力の重要性が確認されました。
- 質疑応答では特にデジタル技術活用のコストや市民参加型都市管理の実施方法など具体的な取組に関心が寄せられました。



シティネットSDGs分科会セミナー2024

SDGsと気候変動対策のシナジー～シティネットのネットワーク活用に向けて～

SDGs達成年である2030年が近づく中、世界全体でその進捗は十分とは言えません。特に「目標13：気候変動に具体的な対策を」は他の目標の達成にも密接に関わっており、また国際的な協力が不可欠な目標です。こうした現状において、具体的な行動主体となる自治体がSDGsと気候変動対策の相乗効果を意識した取組を推進し、またその知見・経験を国際的に共有することが期待されています。本セッションでは、横浜市を含むシティネット会員都市・団体、関連国際機関が登壇し、シティネットのネットワークを活用したSDGsや気候変動対策の取組に係る知見を紹介しました。また、SDGsと気候変動対策の各都市へのローカリゼーション・両者の相乗効果を焦点に議論が行われ、会員都市とのネットワークの強化のみならず、シティネット会員をはじめとしたアジア太平洋地域におけるSDGs・気候変動対策の取組の更なる推進の重要性が強調されました。

主催：横浜市国際局、シティネット横浜プロジェクトオフィス

[オープニング] 横浜市 副市長 佐藤 広毅

クアラルンプール市 市長 マイムナー・モハメド・シャリフ氏

[基調講演] SDGsのローカリゼーションと各地域レベルでの気候変動対策の相乗効果・コベネフィット効果

国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）環境都市開発部持続可能都市開発課

都市の気候変動対策とSDGsローカリゼーション主任 オマール・シディーク氏

[モデレーター] 公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）上席研究員／

サステナビリティ統合センター プログラムディレクター 藤野 純一氏

[スピーカー] 横浜市 国際局 国際局長 三枝 忠裕

ソウル特別市 企画・調整部局 評価マネージャー アラン・マ氏

クアラルンプール市 都市交通局 次長 モハメド・アズラン・シャー・ビン・アブドゥラー氏

全インド地方政府協会（AIILSG）シニアプロジェクトオフィサー ネハ氏

都市資源センター（HELP-O）都市開発部部長 ナディーカ・アマラシンハ氏

[パネリスト] シティネット事務局 上席プログラムオフィサー クリス・ディージェンナロ氏

バギオ市 都市計画・開発コーディネーター/計画・開発・持続可能性オフィス長 ドナ・タバンギン氏

*その他、ESCAP及びSDGs分科会議長都市（横浜市・ソウル特別市・クアラルンプール市）のスピーカーが登壇

[クロージング] シティネット横浜プロジェクトオフィス 所長 栗田 るみ氏



Key point

- 基調講演では、SDGsのローカリゼーションと各都市・地域レベルでの気候変動対策の相乗効果を強化すること、そのツールとしての自発的自治体レビュー（VLR*）の重要性が強調されました。
- シティネット会員による取組発表では、シティネットSDGs分科会議長・副議長の会員都市・団体が、SDGsや気候変動対策に係る取組を紹介しました。
- パネルディスカッションでは、SDGsのローカリゼーションと気候変動対策の相乗効果及びアジア太平洋地域における取組の更なる促進に関して活発な議論が展開されました。取組の更なる推進にあたり、(1) 地方自治体の強力なリーダーシップ、(2) 民間事業者や若年層世代、他の自治体といった様々なステークホルダーの積極的な関与、(3) シティネットが整備する「都市型SDGsナレッジプラットフォーム」に代表される相互学習と知見共有、等が重要であることが確認されました。

*VLR (Voluntary Local Review)：自治体が自発的に自身のSDGsへの取組状況をレビューし、その結果を他自治体と比較可能なレポートとして公開する国際的なイニシアチブ。



クロージングセッション

都市が牽引する新たなグリーン社会の実現 ～アジア・スマートシティ会議が果たす役割～

本会議を総括し、山中市長より会議を総括する「ASCC横浜宣言2024」が読み上げられました。アジアのグリーン社会の実現に向けて重要な「気候変動における都市の重要な役割」「都市間連携の強化」「アジアのリーダーシップを世界へ」の3点が強調され、39の海外都市・機関より賛同を得ました。また、国内外の有識者から「新たなグリーン社会」の実現に向けた意見や提言が述べられ、議論が交わされました。

山中市長は、ASCCは持続可能な開発に関するプラクティスや知見、ビジョンを共有しアジア都市との連携強化・深化する機会だと述べ、本会議での議論がGREEN×EXPO 2027へ繋がることを期待していると締めくくりました。

[スピーカー] 横浜市長 山中 竹春

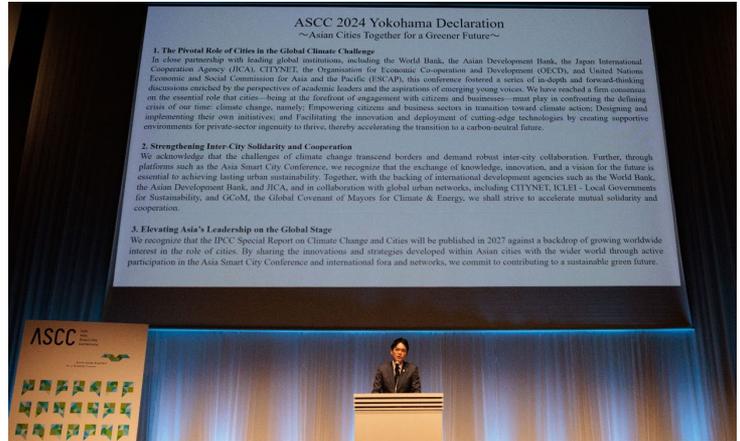
環境省 環境大臣政務官 朝日 健太郎氏

[ビデオメッセージ] OECD 事務次長 武内 良樹氏

[モデレーター] 世界銀行 東京開発ラーニングセンター 上級都市専門官兼チームリーダー クリストファー・パブロ氏

[スピーカー] セブ市長 レイモンド・ガルシア氏

アジア開発銀行 駐日代表事務所 駐日代表 田村 由美子氏





スペシャルキーノート

「脳と人工知能、地球環境の間のアラインメントの未来」

人工知能を活かして人類の明るい未来を切り開くためには、エネルギー問題を含めた地球環境への配慮が欠かせません。

本スペシャルキーノートでは、人類のウェルビーイングとAI技術の間のアラインメント（調和）のこれからについて提示されました。

【スピーカー】 脳科学者 茂木 健一郎氏



横浜発！半導体オープンイノベーションの可能性

スマートシティ、AIなどの進展により、世界的にデータトラフィック量が大幅に増加し、電力消費量も膨大になると予想されています。低消費電力化を実現し、デジタル技術を更に発展させるためには、半導体の微細化・高積層化技術のイノベーションが欠かせません。

本セッションでは、半導体業界で最先端の研究開発を推進する企業と大学から、新たに始めるプロジェクトや現在進行中のコンソーシアムの取組等を紹介。オープンイノベーションの可能性や半導体産業の未来について、議論されました。

【モデレーター】 横浜国立大学 准教授/半導体・量子集積エレクトロニクス研究センター 副センター長 井上 史大氏

【スピーカー】 日本サムスン株式会社 Samsungデバイスソリューションズ研究所

Advanced Package Lab. Corporate Vice President / Lab長 / 博士(工学) 荻谷 隆氏

株式会社レゾナック エレクトロニクス事業本部 開発センター長 池内 孝敏氏





アジアのサーキュラーエコノミーハブとしての横浜の可能性

みなとみらい21地区とその周辺は、大企業のR&Dやスタートアップ、国際機関、大学やそのサテライト拠点が集積し、イノベーションを生み出すための取組が進んでいます。一方で、約337万人もの人口を擁する横浜では、生活者からの脱炭素・サーキュラーが必須であります。そんな横浜をアジアが誇るサーキュラーシティにするには？

本セッションでは、脱炭素・サーキュラーに取り組んできた3人により、横浜の可能性を探っていきました。

[モデレーター] ハーチ株式会社 代表取締役 加藤 佑氏

[スピーカー] 株式会社StockBase 代表取締役 関 芳実氏

欧州ビジネス協会 ステファン・ル・ドゥ氏



アフリカビジネスセッション

Business with Africa: current and future potential

日本企業のアフリカビジネスの現状と今後の可能性をテーマとした講演とパネルディスカッションを行いました。

アフリカ進出のきっかけや現地での課題解決策、ネットワークや信頼関係の構築方法、事業規模のスケールアップに向けた取組等について、アフリカビジネスの最前線で活躍する企業等の知見を共有しました。また、この機会を捉え、アフリカ12か国から約30名のビジネスパーソンが訪れ、アフリカビジネスセッションへの参加に加え、ブース出展を行った市内企業等とのネットワーキングを行いました。※外務省「TICAD9パートナー事業」

[モデレーター] 日本貿易振興機構(JETRO) 企画部審議役 兼 アフリカビジネス協議会 事務局長 佐藤 隆正氏

[スピーカー] 経済産業省 アフリカ室長 名倉 和子氏

[パネリスト] 日之出産業株式会社 取締役 藤田 香氏

株式会社STANDAGE 取締役副社長 大森 健太氏

会宝産業株式会社 海外事業部 部長 鈴木 大詩氏





ユースセッション（ヨコハマ未来創造会議×IFAD Youth Club）

Our Future is Here～気候危機に共に立ち向かう～

気候変動と食料危機は、世界の平和と安全にとって深刻かつ増大する脅威であり、差し迫る危機を克服し、持続可能な未来を実現するためには、イノベティブな若者たちの感性やアイデア、マルチレベルでの連携・協力が求められています。

本セッションでは、GREEN×EXPO 2027の開催を契機に、環境にやさしい生活や社会を探求し、アクションを起こすきっかけとなるプラットフォームとして立ち上げられた「ヨコハマ未来創造会議」の参加ユースと、国連の専門機関である国際農業開発基金（IFAD）のミッションに共鳴し、持続可能な農業や食料システムを目指して立ち上がった「IFAD Youth Club」の参加ユースが、その感性を生かした活動やローカル・グローバルの未来に向けたアイデアを発信し、知見を共有するとともに、ユースがけん引し、マルチステークホルダーとの連携によって実現する持続可能な未来について議論しました。

[モデレーター] 株式会社UNERI 代表取締役CEO/ヨコハマ未来創造会議 メンター 河合 将樹氏

[スピーカー] ヨコハマ未来創造会議 メンバー 西尾 匡史氏

ヨコハマ未来創造会議 メンバー 若狭 僚介氏

IFAD Youth Club メンバー 永田 理華氏

IFAD Youth Club メンバー 藤野 未散氏

IFAD Youth Club メンバー 宇多川 真桜子氏

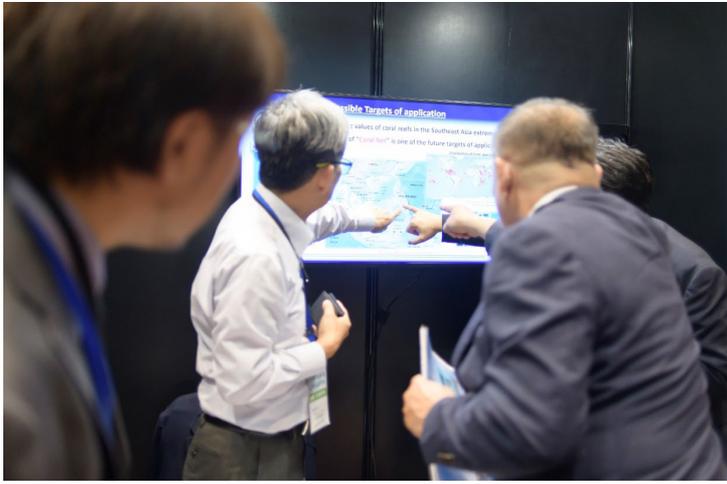
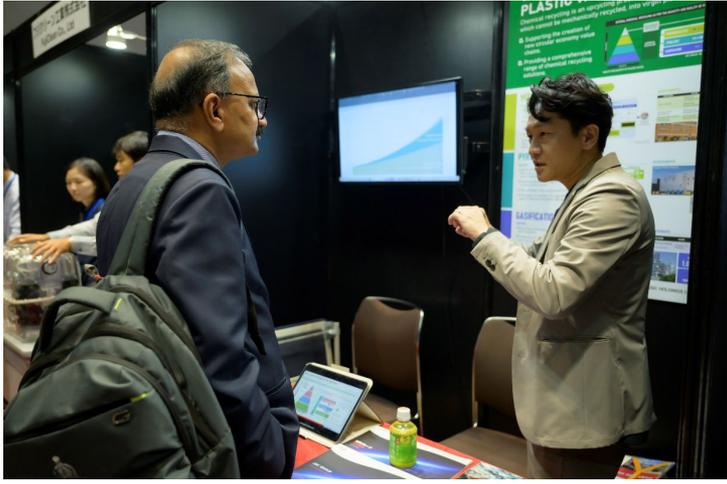
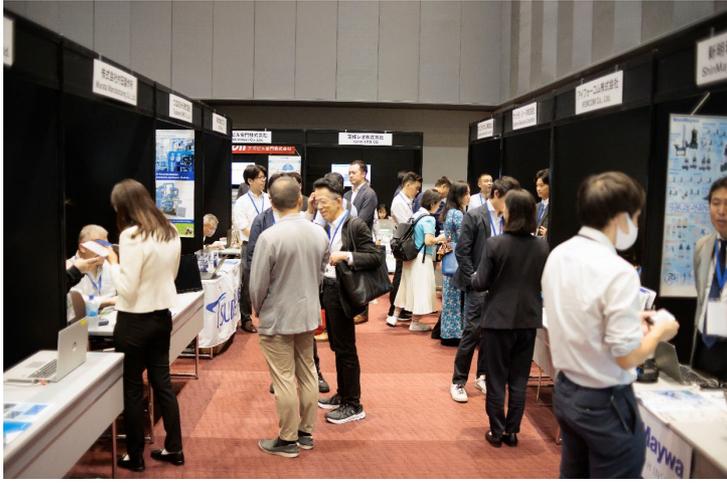


ブース出展

「GX（Green Transformation）」、「最先端技術」、「都市課題解決」、「イノベーション」をキーテーマに46者による多彩な出展ブースを設け、持続可能なグリーン社会の実現に向けた先進的な技術やソリューションを発信しました。会場内には商談・ネットワーキング用のスペースも設置しました。



株式会社R2、アイフォーコム株式会社、アズビル金門株式会社、株式会社アSEMBルポイント、株式会社アルガルバイオ、WHILL株式会社、株式会社e6s、株式会社NJS、Enpower Japan株式会社、オデーサITファミリー、Opero株式会社、鹿島建設株式会社、カナデビア株式会社、株式会社カモン、株式会社kitafuku、株式会社京三製作所、キリンホールディングス株式会社、株式会社clivia nobilis、GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）、GO株式会社、国際熱帯木材機関（ITTO）、国際農業開発基金（IFAD）、Circular Yokohama（ハーチ株式会社）、株式会社Sansei、サントモ・リソース株式会社、株式会社シーエムプラス、JFEエンジニアリング株式会社、信愛エネルギー株式会社、新明和工業株式会社、第9回アフリカ開発会議（TICAD9）横浜開催、つばめBHB株式会社、株式会社DCTA、株式会社TBM、東京計器株式会社、東芝インフラシステムズ株式会社、東邦レオ株式会社、日揮ホールディングス株式会社、日本原料株式会社、日本ミクニヤ株式会社、株式会社バイオテックワークスエイチツー、株式会社ファインテック、フジクリーン工業株式会社、株式会社村田製作所、八千代エンジニアリング株式会社、横浜ウォーター株式会社、LOOVIC株式会社（50音順）





ビジネスネットワーキング

46者の展示ブースや会場内のネットワーキングスペースで、海外都市、国内外の企業、学生等多様なステークホルダー間の交流が活発に行われました。海外都市と国内企業間で、約220件の個別商談を含む、延べ1,100件超のビジネス交流が実現しました。



アトラクション

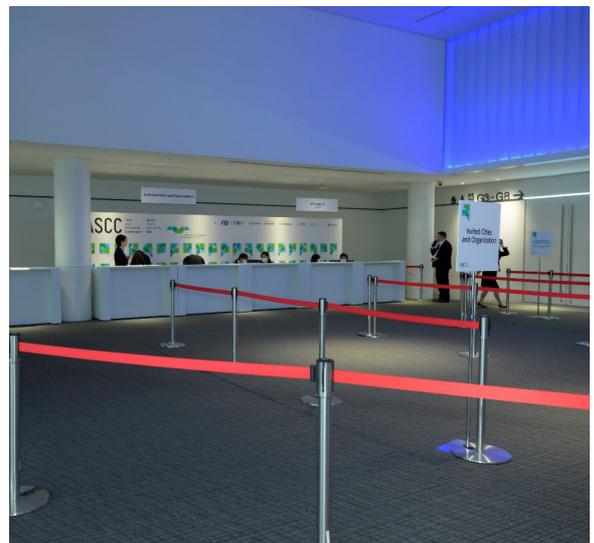
日本文化を楽しみながら交流ができるデジタルフォトスポット型体験イベント「DIVE IN UKIYO-E!®」では、迫力のある浮世絵、きれいなモチーフの浮世絵と一緒に合成動画を生成し、スマートフォンで楽しんでいただきました。また、バーチャル空間の中に創られた展示会場が体験できる「VR exhibition room for CITYNET SDGs Youth Activity!®」では、2022年より続く、横浜市立みなとみらい本町小学校やモンゴル・ウランバートル第23学校の子供も達の交流活動の一環として、SDGsに関する作品を展示しました。



会場装飾

会議のテーマが「脱炭素」であることから、サステナブルな会場装飾を施しました。

事業を通じて出てしまう使用済みのプラスチックや包装古紙、ロスフラワー等の廃材を活用し、「BLUE STAGE」はブルーをベースに美しい海の中を、「GREEN STAGE」はグリーンをベースに豊かな自然を表現しました。





プレカンファレンスイベント
都市インフラ施設見学会

プレカンファレンスイベント 都市インフラ施設見学会

海外からの招聘都市・機関を対象に横浜市の都市インフラ施設見学会を行いました。見学会には下表5つのコースを設け、合計13か国から75名が参加しました。環境省から「脱炭素先行地域」に選定されたみなとみらい21地区（MM21）での先進的な取組や、水循環の技術を備えた横浜市北部汚泥資源化センター等、横浜市の脱炭素化に向けた取組の現状を紹介しました。

<p>Aコース 新庁舎のグリーンエネルギー施策</p>	<p>【横浜市庁舎】 最高ランクの省エネルギー性能と快適性を両立し、再生可能エネルギーの地産地消を推進するネット・ゼロ・エネルギービル（ZEB）をコンセプトとした新庁舎（2020年竣工）。ZEB Readyを取得している。</p>
<p>Bコース 水循環の最先端技術</p>	<p>【北部汚泥資源化センター】 水再生センターから発生する下水汚泥を処理し、発生した消化ガスや焼却灰・燃料化物を有効利用することで循環型社会の形成に貢献。</p>
<p>Cコース 地域連携でのCCU共同実証</p>	<p>【資源循環局鶴見工場】 ごみ焼却時に発生する排ガスから二酸化炭素を分離・回収し、都市ガスの原料であるメタンを製造する「メタネーション」の利用実証実験の取組。横浜市と東京ガス・三菱重工グループによる地域連携の共同実証。 *CCU - Carbon dioxide Capture, Utilization: 二酸化炭素回収・利用</p>
<p>Dコース 公民連携での脱炭素モデル構築</p>	<p>【パシフィコ横浜ノース】 施設内で収集された全ての廃棄物の資源化に取り組む日本最大級の複合MICE施設。廃棄物から発電した電力を近隣地区に供給し循環型エコシステムを実現。 【YUMESAKI GALLERY】 LG社が提供するまちのにぎわい創出やエンターテインメント要素を組み込んだアクティビティフロアとして設けられた、音や光を通して体験できるデジタル体験ギャラリー。 【横浜ランドマークタワー】 館内の全ての電力・熱源に再生可能エネルギーを使用し、二酸化炭素の削減を実現。廃棄物リサイクル、排水の再利用等の取組も積極的に推進。</p>
<p>Eコース 民間セクターによる脱炭素の貢献</p>	<p>【横浜シンフォステージ】 先進の環境配慮技術の導入と利用者に配慮した施設計画による次世代複合ビル。建物のエネルギー消費を抑制しながら快適なオフィス環境を創造。 【Port Plus】 大林組の研修センターとして建てられた日本初の高層純木造耐火建築物。木材利用による脱炭素社会実現への貢献と、木材利用の拡大・促進による持続可能な社会の実現に貢献。</p>

見学会の前にはY-PORTセンター公民連携オフィスGALERIOにて、各コースの紹介を含む事前ブリーフィングを実施しました。全体説明に加えてA・D・Eコースの参加者に対しては、見学会の事前知識としてみなとみらい地区の歴史と脱炭素の取組を紹介しました。





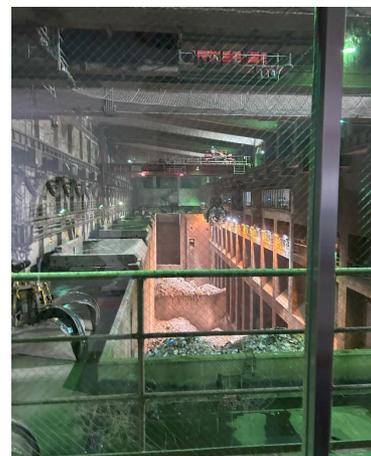
A.新庁舎のグリーンエネルギー施策
横浜市庁舎



B. 水循環の最先端技術
北部汚泥資源化センター



C. 地域連携でのCCU共同実証
資源循環局鶴見工場



D. 公民連携での脱炭素モデル構築
パシフィコ横浜ノース・YUMESAKI GALLERY・ランドマークタワー



E. 民間セクターによる脱炭素への貢献
横浜シンフォステージ・Port Plus





Aコース：新市庁舎のグリーンエネルギー施策

横浜市役所

最高ランクの省エネルギー性能と再生可能エネルギーの地産地消を推進するネット・ゼロ・エネルギービルディング（ZEB）をコンセプトに建てられた横浜市役所新市庁舎（2020年竣工）の視察を行いました。以前の旧市庁舎は建築から約60年が経過し、施設・設備の老朽化や執務室の不足、危機管理機能強化の必要性など喫緊の課題を多く抱えており、こうした課題を解決したうえで環境性能を高める新市庁舎が実現されました。

ダブルスキンカーテンウォールや自然換気窓とエコボイドを採用した環境技術、市庁舎で使用する電力を賄うための燃料電池や太陽光発電といった電気設備の見学を行いました。また、災害時にも事業を継続するためのBCP対策としてのハイブリッド免振と、主要な電気・機械室を浸水の恐れがない4階に設置したうえで7日間使用できる非常用電源と生活用水の確保といった取組の説明を受けました。



Bコース：水循環の最先端技術

北部汚泥資源化センター

横浜市北部汚泥資源化センターの見学を行いました。同センターは、水再生センターから発生する下水汚泥を処理し、発生した消化ガスや焼却灰・燃料化物を有効利用することで循環型社会の形成に貢献しています。汚泥資源化の過程を、講義に加えて施設内を見学しながら学んでいただきました。参加者からは、設備や技術に関する多くの質問が挙がりました。





Cコース：地域連携でのCCU共同実証

資源循環局鶴見工場

ごみ焼却時に発生する排ガスから二酸化炭素を分離・回収し、都市ガスの原料であるメタンを製造する「メタネーション」の利用実証実験の取組が紹介されました。メタネーションは横浜市と東京ガス・三菱重工グループによる地域連携の共同実証として進められており、各企業の担当者より詳細な説明を受けた後、施設内の見学を行いました。参加者からは自国の生ごみ焼却時の課題解決策や設備の導入コストなどの質問が挙がり、最先端技術への関心の高さがうかがえました。





Dコース：公民連携での脱炭素モデル構築

みなとみらい21地区の開発状況と開発コンセプトに沿ったまちづくりの実現を学ぶコースを実施しました。パシフィコ横浜ノース、YUMESAKI GALLERY、横浜ランドマークタワーの各施設での講義と見学を通して民間と協働で進める脱炭素の取組を学びました。

パシフィコ横浜ノース

施設内で収集された全ての廃棄物の資源化に取り組む日本最大級の複合MICE施設について説明を受け、施設内見学を行いました。パシフィコ横浜ノースでは、廃棄物から発電した電力を近隣地区に供給し循環型エコシステムを実現しています。



YUMESAKI GALLERY

LG横浜イノベーションセンター内にあるYUMESAKI GALLERYを訪れ、歩道に接続するコモンスペースとして設けられ、まちのにぎわい創出に貢献するアクティビティフロアの見学を行いました。



横浜ランドマークタワー

みなとみらい21地区・横浜港の歴史や近年の開発状況についての説明を受けました。見学の最後には展望台からみなとみらい21地区を一望し、一連の学びを締めくくりました。





Eコース：民間セクターによる脱炭素への貢献

「脱炭素先進地域」であるみなとみらい21地区における、民間企業の脱炭素社会への貢献をテーマに横浜シンフォステージとPort Plusの2施設を巡りました。いずれも大林組が手がける、先進的な複合商業施設及び日本初の高層純木材耐火建築物の見学を行い、建築物の先進的な環境配慮技術を軸に活発な意見交換が行われました。

横浜シンフォステージ

先進の環境配慮技術の導入と利用者に配慮した施設計画により快適なオフィス空間の実現を目指した次世代複合ビル。建物のエネルギー消費を抑制しながら快適なオフィス環境をつくり出す技術と建築計画を学びました。



Port Plus

大林組の研修施設であり、日本初の高層純木造耐火建築物となるPort Plus。木材利用による脱炭素社会実現への貢献と、木材利用の拡大・促進による持続可能な社会の実現を目指す実践的な取組について説明を受け、建物内の見学を行いました。





成果文書及び主な参加者情報



ASCC2024横浜宣言

～Asian Cities Together for a Greener Future～

2024年10月24日

2024年10月23日及び24日、日本国横浜市において「アジアの都市とともにグリーンな未来へ」をテーマに第13回アジア・スマートシティ会議を開催しました。

1 気候変動における都市の重要な役割

我々は、今回世界銀行やアジア開発銀行、独立行政法人国際協力機構（JICA）、アジア太平洋都市間協力ネットワーク（CITYNET）、経済協力開発機構（OECD）、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)などグローバルなパートナーとの緊密な連携により実施した詳細で先進的なセッションを通じ、また学術機関のリーダーによる視点や次代を担う熱意あふれる若者による議論を踏まえ、我々にとって決定的な危機である気候変動に対しては、市民や企業の行動変容を促進すること、行政自身が率先的な行動を進めること、企業が創意工夫を発揮できる環境を整え脱炭素イノベーションや最新技術の創出を後押しすることなど、市民や企業に最も身近な都市ならではの役割を果たしていくことにより、カーボンニュートラルな未来への移行を加速化していくことが重要という認識で一致しました。

2 都市間連携の強化

我々は、気候変動が地球規模の課題であり、堅固な都市間連携が求められているとの認識のもと、アジア・スマートシティ会議等のプラットフォームを活用して、互いに知見や革新的技術、そして将来ビジョンの共有を継続的に進めていくことが、都市の持続可能性の実現のために重要であることを確認しました。世界銀行やアジア開発銀行、JICA等の国際開発機関のサポートのもと、また、CITYNETや持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会（ICLEI）、世界気候エネルギー首長誓約（GCoM）等の国際的な都市ネットワークを活用し、都市間の連携をさらに強化していきます。

3 アジアのリーダーシップを世界へ

我々は、都市の役割への関心が世界中で高まりIPCCが「気候変動と都市に関する特別報告書」を2027年に発表予定であることなどを踏まえ、アジア・スマートシティ会議等の国際会議の機会や国際的なネットワークを活用し、アジアの都市におけるイノベーションや戦略を広く世界に共有することを通じて、持続可能なグリーン社会の形成に貢献します。



賛同都市・機関一覧

カンボジア王国

プノンペン都

インド共和国

住宅都市省

港湾・海運・水路省

インドネシア共和国

国家開発計画省／国家開発企画庁

ジャカルタ首都特別州

南スラウェシ州

バリクパパン市

パル市

マレーシア

クアラルンプール市

ネパール連邦民主共和国

ティローッタマー市

パキスタン・イスラム共和国

パンジャブ州

パンジャブ州アフォーダブル住宅プログラム

パンジャブ州開発公社

フィリピン共和国

観光インフラおよび企業誘致区庁

バギオ市

バランガ市

ボゴ市

ボロンガン市

ブトゥアン市

カバドバラン市

カランバ市

セブ市

ダナオ市

マンダウエ市

パサイ市

ケソン市

サンカルロス市

ラウニオン州サンフェルナンド市

パンパンガ州サンフェルナンド市

サンタロサ市

シンガポール共和国

国家開発省住みやすい都市センター (CLC)

大韓民国

ソウル特別市

スリランカ民主社会主義共和国

コロombo・ポートシティー経済委員会

タイ王国

バンコク都

ウズベキスタン共和国

経済財務省

サマルカンド州

タシケント市

ベトナム社会主義共和国

ダナン市天然資源環境局

ハティン省人民委員会

(アルファベット順)



参加国一覧

■参加国数：46か国（50音順）

アゼルバイジャン共和国
 アメリカ合衆国
 英国
 イラン・イスラム共和国
 インド共和国
 インドネシア共和国
 ウガンダ共和国
 ウクライナ
 ウズベキスタン共和国
 エジプト・アラブ共和国
 エチオピア連邦民主共和国
 ガーナ共和国
 カメルーン共和国
 大韓民国
 カンボジア王国
 ギニア共和国
 ケニア共和国
 コートジボワール共和国

サモア独立国
 ザンビア共和国
 シンガポール共和国
 スーダン共和国
 スリランカ民主社会主義共和国
 セネガル共和国
 タイ王国
 タジキスタン共和国
 タンザニア連合共和国
 中華人民共和国
 トルコ共和国
 ナイジェリア連邦共和国
 ニジェール共和国
 ネパール連邦民主共和国
 パキスタン・イスラム共和国
 バヌアツ共和国
 バングラデシュ人民共和国

フィリピン共和国
 フランス共和国
 ベトナム社会主義共和国
 ベナン共和国
 マラウイ共和国
 マリ共和国
 マレーシア
 ミャンマー連邦共和国
 モーリタニア・イスラム共和国
 リトアニア共和国
 ルワンダ共和国





登壇者一覧 (敬称略)

DAY1 10月23日(水) BLUE STAGE

オープニングセッション

役割	氏名	所属
オープニングスピーカー	山中 竹春	横浜市 市長
スピーカー	アンヘリカ・ヌニェス	世界銀行 都市・防災・強靱性・土地グローバルプラクティス グローバルプログラムユニット プラクティス・マネージャー
スピーカー	ラメシュ・スブラマニウム	アジア開発銀行 (ADB) セクターグループ局長



GREEN×EXPO 2027セッション-「幸せを創る明日の風景」の実現に向けて-

役割	氏名	所属
モデレーター	清瀬 一浩	公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 企画調整部長
スピーカー	佐座 慎苗	一般社団法人SWiTCH 代表理事
スピーカー	竹田 徹	三菱地所株式会社 執行役常務
スピーカー	橋本 禪	東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授



ビジネスキーノート

役割	氏名	所属
スピーカー	ペトラ・ファーレ	イケア・ジャパン株式会社 代表取締役社長兼CSO



※代理登壇：加藤 明子/IKEA Japan Country Communication manager

港湾都市の脱炭素化

役割	氏名	所属
イントロダクション	ジョイ・ブレッシルダ・シナイ	アジア開発銀行研究所 (ADB) キャパシティビルディング&トレーニングエコノミスト
モデレーター	R. ダンカン・マッキントッシュ	アジア開発銀行 (ADB) シニア地域海事 専門家
パネリスト	エレイン・タン	シンガポール国家開発省住みやすい都市センター (CLC) 研究部長
パネリスト	ムリティウンジャイ・ジャー	インド港湾・海運・水路省 調整局第2部 部長
パネリスト	H.C.J. ティラカратネ	スリランカ コロンボ・ポートシティ経済委員会 エンジニアリング部長
パネリスト	イエシム・エルハン=カヤラル	アジア開発銀行 (ADB) チーフエコノミスト室 アドバイザー兼経済調査・開発影響局長
パネリスト	フェイルリー・イリザル	ジャカルタ首都特別州地域開発計画庁経済部長/ジャカルタ首都特別州政府
パネリスト	林 総	横浜市 港湾局 政策調整部長



JICAセッション 最前線にて～気候変動対策、そして前へ～

役割	氏名	所属
モデレーター	加藤 真	一般社団法人海外環境協力センター(OECC) 理事
スピーカー	森田 隆博	独立行政法人国際協力機構(JICA) 地球環境部 部長
スピーカー	柴田 和直	独立行政法人国際協力機構(JICA) 地球環境部次長兼環境管理・気候変動対策グループ長
スピーカー	パティソン・シホ・フレッド	太平洋地域環境計画事務局(SPREP)、 太平洋気候変動センター(PCCC) 気候資金・レディネス・アドバイザー
スピーカー	米田 善治	オオスミベトナム株式会社 社長
スピーカー	ファム・ティ・チン	ダナン市 天然資源環境局 海・島・環境庁副庁長
スピーカー	ウォラスック・スアイカカオ	バンコク都環境局 副局長
スピーカー	富岡 典夫	横浜市 国際局グローバルネットワーク推進部長



DAY 1 10月23日(水) GREEN STAGE

アジアの都市によるリバースピッチ/日本企業によるビジネスピッチ ～都市課題の解決に向けたビジネスマッチング～

役割	氏名	所属
モデレーター	品川 優	株式会社An-Nahal 代表取締役
スピーカー	松本 忠	経済協力開発機構(OECD)



【リバースピッチ登壇都市】
ラウニオン州サンフェルナンド市(フィリピン)、マダウエ市(フィリピン)、プノンベン市(カンボジア)、
サンカルロス市(フィリピン)、バリクパバン市(インドネシア)

【ビジネスピッチ登壇企業】
株式会社京三製作所、JFEエンジニアリング株式会社、株式会社村田製作所、サントモ・リソース株式会社、
カナデビア株式会社(旧・日立造船株式会社)

次世代エネルギーの活用による脱炭素イノベーションの創出

役割	氏名	所属
モデレーター	内田 裕子	INNOVEDIA 代表/経済ジャーナリスト
スピーカー	八木 冬樹	千代田化工建設株式会社 フロンティアビジネス本部 本部長補佐/兼戦略統合本部 経営企画部 技術戦略室 室長
スピーカー	高橋 徹	東京ガス株式会社 水素・カーボンマネジメント技術戦略部革新的メタネーション 技術開発グループマネージャー
スピーカー	松下 功	横浜市 脱炭素・GREEN×EXPO推進局カーボンニュートラル事業推進課長



E Vは本当に実用的なのか～モビリティの2030年を考える～

役割	氏名	所属
モデレーター	近藤 敦	The Drivery Japan モビリティ・イノベーション・アナリスト
スピーカー	川端 由美	自動車ジャーナリスト/環境ジャーナリスト
スピーカー	佐々木 将洋	G O株式会社 執行役員 GX事業本部 本部長



市内および海外大学の学生による都市課題解決戦略の共同提案発表～インフォーマル市街地におけるレジリエンス～

役割	氏名	所属
モデレーター	中西 正彦	横浜市立大学大学院 都市社会文化研究科 教授、グローバル都市協力研究センター まちづくりユニット ユニットリーダー
モデレーター	北原 麻理奈	横浜市立大学 グローバル都市協力研究センター 特任助教
リアクター	水上 貴裕	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 社会基盤部 都市・地域開発グループ第二チーム 調査役
リアクター	秋葉 拓哉	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 社会基盤部 都市・地域開発グループ第二チーム ジュニア専門員
スピーカー	学生8名	横浜市立大学



ウェルビーイングを向上する都市デザイン

役割	氏名	所属
モデレーター	南雲 岳彦	一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事/横浜市立大学特任教授
スピーカー	宮崎 智之	横浜市立大学 医学群教授・研究・産学連携推進センター拠点事業推進部門長
スピーカー	三木 はる香	世界銀行 業務担当官
スピーカー	イ・ジョンフン	延世大学 教授



DAY2 10月24日(木) BLUE STAGE

強靱でグリーンな都市づくり～海外に学び做うソリューション～

役割	氏名	所属
モデレーター	クリストファー・パブロ	世界銀行東京開発ラーニングセンター 上級都市専門官兼チームリーダー
モデレーター	俵 渉子	世界銀行東京開発ラーニングセンター プログラムオフィサー
スピーカー	アンヘリカ・ヌニェス	世界銀行 都市・防災・強靱性・土地グローバルプラクティス グローバルプログラムユニット プラクティス・マネージャー
スピーカー	ハディアント・ラシード	インドネシア国 パル市長
スピーカー	テミュール・イブラギモフ	タシケント市デジタル開発局 分析センター副所長
スピーカー	ヌルムカマンド・コシモブ	サマルカンド地域投資・産業・貿易省 局長
スピーカー	サバ・アスガール・アリ	パキスタン・パンジャブ州政府 計画開発委員会環境・気候変動主任



SDGsと気候変動対策のシナジー ～シティネットのネットワーク活用に向けて～

役割	氏名	所属
スピーカー	佐藤 広毅	横浜市 副市長
スピーカー	マイムナー・モハメド・シャリフ	クアラルンプール市 市長
スピーカー	オマール・シディーク	国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) 環境開発部持続可能都市開発課 都市の気候変動対策とSDGsローカリゼーション主任
モデレーター	藤野 純一	公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 上席研究員/ サステイナビリティ統合センター プログラムディレクター
スピーカー	三枝 忠裕	横浜市 国際局長
スピーカー	アラン・マ	ソウル特別市 企画・調整部局評価マネージャー
スピーカー	モハマド・アズラン・シャー・ビン・アブドゥラー	クアラルンプール市 都市交通局 次長
スピーカー	ネハ	全インド地方政府協会 (AIILSG) シニアプロジェクトオフィサー
スピーカー	ナディーカ・アマラシンハ	都市資源センター(HELP-O) 都市開発部部长
スピーカー	クリス・ディジェンナロ	シティネット事務局 上席プログラムオフィサー
スピーカー	ドナ・タバングン	バギオ市 都市計画・開発コーディネーター/計画・開発・持続可能性オフィス長
スピーカー	栗田 るみ	シティネット横浜プロジェクトオフィス 所長



クロージングセッション

都市が牽引する新たなグリーン社会の実現 ～アジア・スマートシティ会議が果たす役割～

役割	氏名	所属
スピーカー	山中 竹春	横浜市 市長
スピーカー	朝日 健太郎	環境省 環境大臣政務官
ビデオメッセージ	武内 良樹	経済協力開発機構(OECD) 事務次長
モデレーター	クリストファー・パプロ	世界銀行東京開発ラーニングセンター 上級都市専門官兼チームリーダー
スピーカー	レイモンド・ガルシア	セブ市 市長
スピーカー	田村 由美子	アジア開発銀行 駐日代表



DAY2 10月24日(木) GREEN STAGE

スペシャルキーノート 脳と人工知能、地球環境間のアラインメントの未来

役割	氏名	所属
スピーカー	茂木 健一郎	脳科学者



(C) Itaru Hirama 2021

横浜発！半導体オープンイノベーションの可能性

役割	氏名	所属
モデレーター	井上 史大	横浜国立大学 准教授 / 半導体・量子集積エレクトロニクス研究センター副センター長
スピーカー	荻谷 隆	日本サムスン株式会社 Samsung デバイスソリューションズ研究所 Advanced Package Lab. Corporate Vice President / Lab長 / 博士 (工学)
スピーカー	池内 孝敏	株式会社レゾナック エレクトロニクス事業本部 開発センター長



アジアのサーキュラーエコノミーハブとしての横浜の可能性

役割	氏名	所属
モデレーター	加藤 佑	ハーチ株式会社 代表取締役
スピーカー	関 芳実	株式会社StockBase 代表取締役
スピーカー	ステファン・ル・ドゥ	欧州ビジネス協会



アフリカビジネスセッション Business with Africa: current and future potential

役割	氏名	所属
モデレーター	佐藤 隆正	日本貿易振興機構 (JETRO) 企画部審議役兼アフリカビジネス協議会事務局長
スピーカー	名倉 和子	経済産業省 アフリカ室長
パネリスト	藤田 香	日之出産業株式会社 取締役
パネリスト	大森 健太	株式会社STANDAGE 取締役副社長
パネリスト	鈴木 大詩	会宝産業株式会社 海外事業部部长



Our Future is Here ~気候危機に共に立ち向かう~

役割	氏名	所属
モデレーター	河合 将樹	株式会社UNERI 代表取締役CEO/ ヨコハマ未来創造会議 メンター
スピーカー	西尾 匡史	ヨコハマ未来創造会議 メンバー
スピーカー	若狭 僚介	ヨコハマ未来創造会議 メンバー
スピーカー	永田 理華	IFAD Youth Club メンバー
スピーカー	藤野 未散	IFAD Youth Club メンバー
スピーカー	宇多川 真桜子	IFAD Youth Club メンバー





脱炭素アンケート結果

第13回アジア・スマートシティ会議における参加都市の脱炭素ニーズに関する情報収集を行うために、アンケート調査を実施しました。下記5つの項目に関してアンケートを実施するとともにASCC会期中にヒアリングを実施して、都市や国際機関を含む全35の組織から回答を頂きました。

【調査項目】

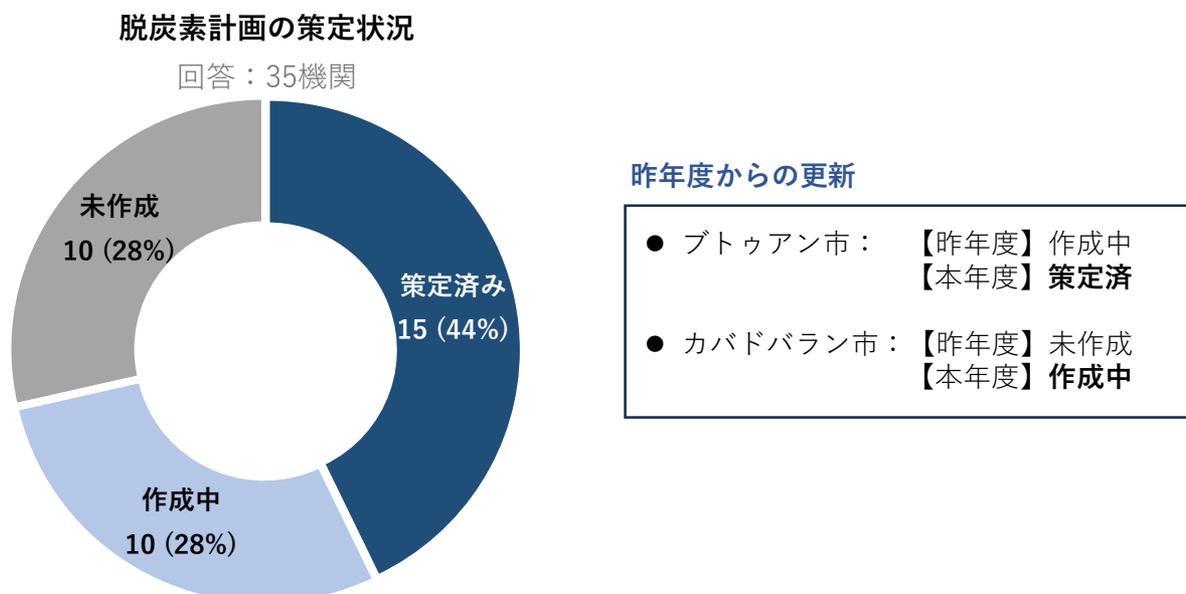
- A) 基本情報（所属、担当者）
- B) 脱炭素化に向けた計画の策定状況（策定有無、目標・将来ビジョン、重点事業、課題）
- C) 脱炭素に関して関心の高いセクター・ソリューション（都市計画・都市開発、上下水、エネルギー、廃棄物、交通）
- D) ビジネスマッチングを希望するセクター・企業名
- E) その他ASCCに関する期待

アンケート回答機関一覧（50音順）

中央アジア	[ウズベキスタン共和国] 経済財務省、サマルカンド州、タシケント市
東アジア	[大韓民国] ソウル特別市
東南アジア	[インドネシア共和国] ジャカルタ首都特別州地域開発計画庁／南スラウェシ州／バリクパパン市 [シンガポール共和国] 国家開発省住みやすい都市センター（CLC） [タイ王国] バンコク都 [フィリピン共和国] 観光インフラおよび企業誘致区庁／カバドバラ市／ケソン市／サンカルロス市 ／サンタロサ市／パンパンガ州サンフェルナンド市／ラウニオン州サンフェルナンド市／バギオ市／ブ トゥアン市／ボゴ市／ボロンガン市／マンダウエ市／ラオアグ市 [ベトナム社会主義共和国] ドン タップ省建設局／ハティン省人民委員会／ダナン市天然資源環境局 [マレーシア] 運輸省／クアラル ンプール市
南アジア	[インド共和国] 港湾・海運・水路省 [スリランカ民主社会主義共和国] コロンボ・ポートシティー 経済委員会 [ネパール連邦民主共和国] シッダールタナガール市／ティローッタマー市 [パキスタン・ イスラム共和国] パンジャブ州／パンジャブ州アフォーダブル住宅プログラム／パンジャブ州開発公社 [バングラデシュ人民共和国] クルナ市

■脱炭素化に向けた計画の策定状況

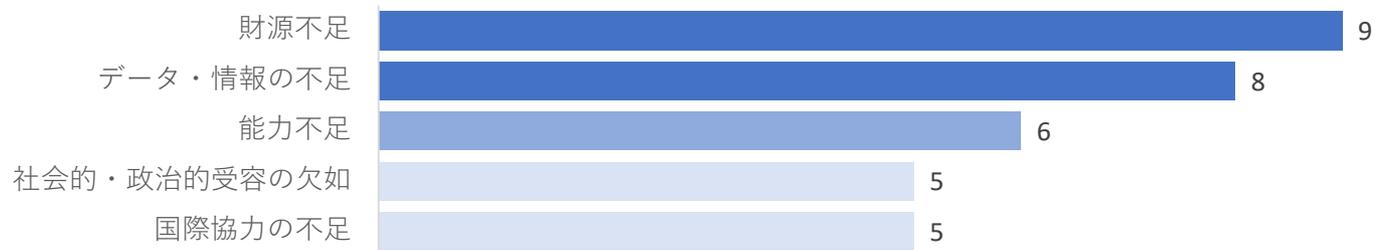
本項目に回答頂いた35機関のうち、15機関が計画策定済み、10機関が作成中、10機関が未策定でした。



未策定の10機関は「財源不足」、「データ・情報不足」が脱炭素計画作成にあたり大きな課題となっており、次いで、「能力不足」「脱炭素に関する社会・政治的受容の欠如」「国際協力の不足」が挙がりました。

脱炭素計画作成にあたる課題（複数回答）

回答：未策定の10機関

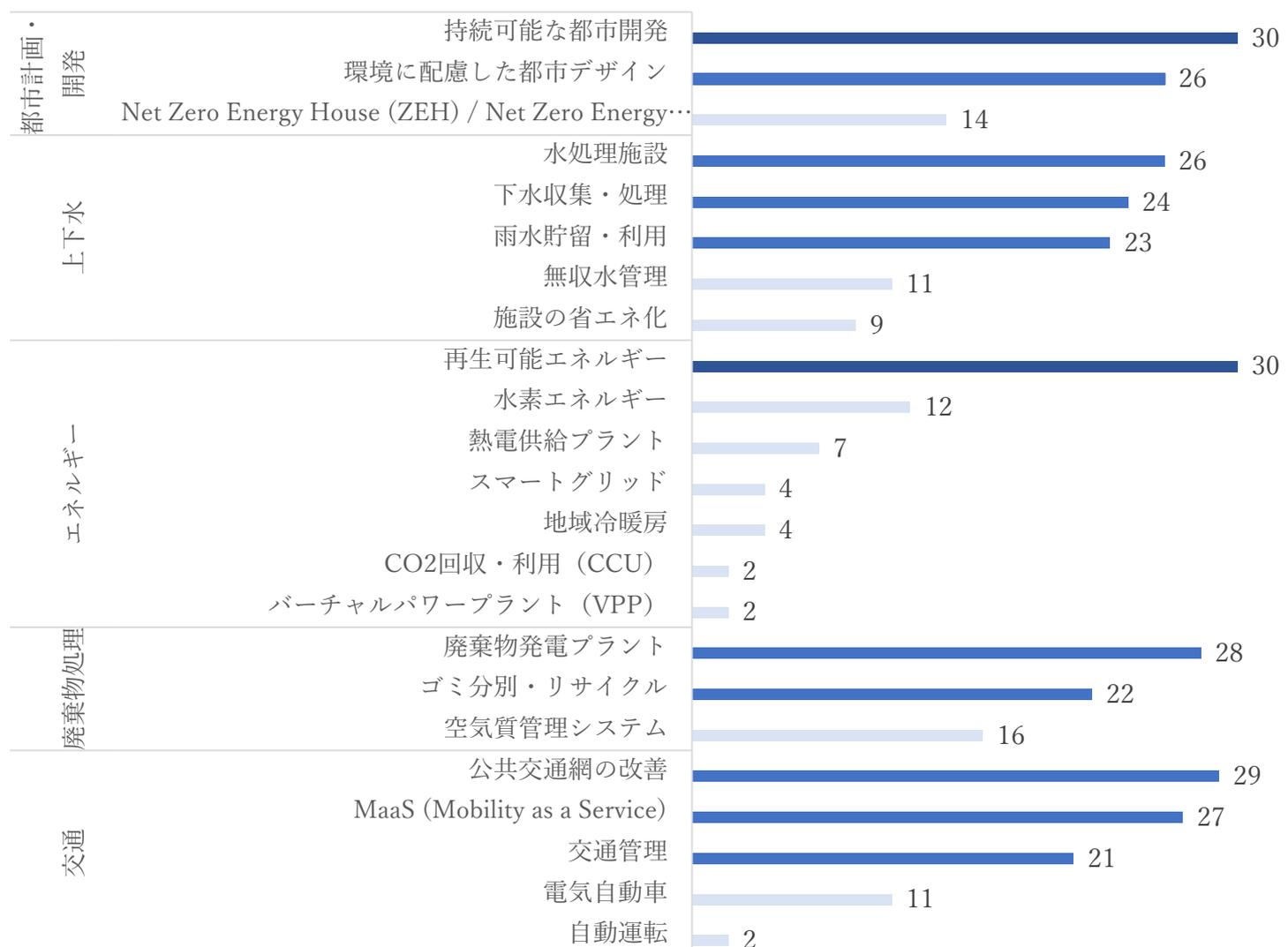


脱炭素化に係るソリューションへの関心

脱炭素化に向けた課題や具体的な導入を検討しているソリューションのセクターに関して、「都市計画・開発」「上下水」「エネルギー」「廃棄物処理」「交通」の全セクターで、幅広く関心がある事が分かりました（複数回答）。また個別のソリューションについては、「持続可能な都市開発」、「再生可能エネルギー」に関して、30機関以上が関心有と回答しました。

第13回アジア・スマートシティ会議中のビジネスマッチング会場では、本アンケート結果を踏まえて関心の高いセクター及びソリューションを有する市内企業とのマッチングを促進しました。

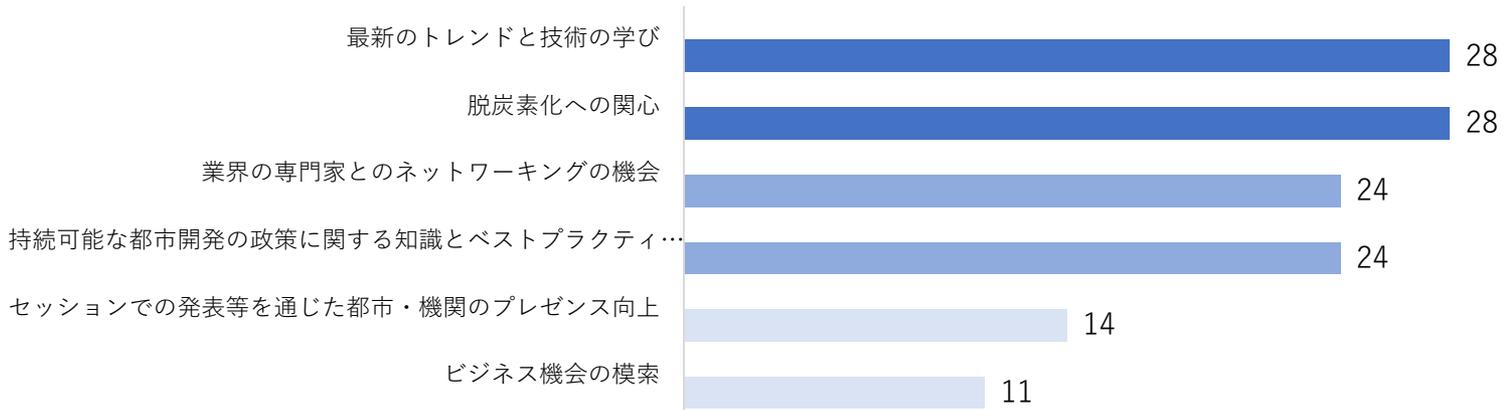
関心のある脱炭素化に向けたソリューション（複数回答）



■ASCCへの参加にあたる動機と期待

第13回ASCCにおける参加予定都市・機関の参加動機と本会議への期待として、「最新のトレンドと技術の学び」、「脱炭素への関心」が一番多く挙がり、続いて「業界の専門家とのネットワークの機会」、「持続可能な都市開発の政策に関する知識とベストプラクティスの共有」と回答されました。

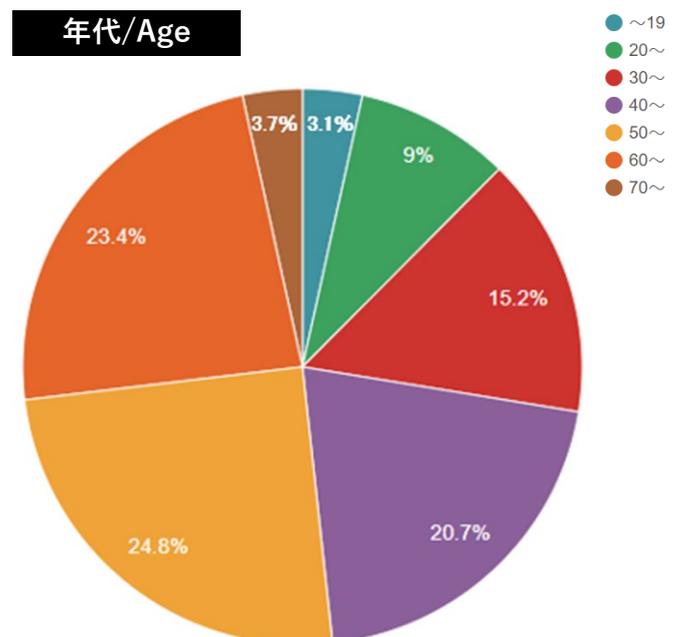
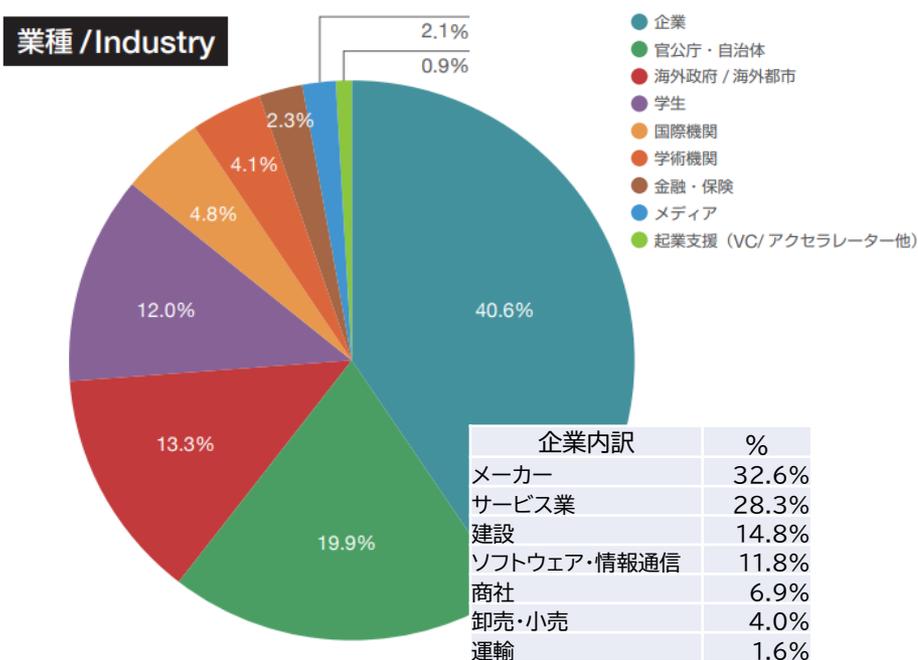
第13回ASCC参加にあたる動機と期待



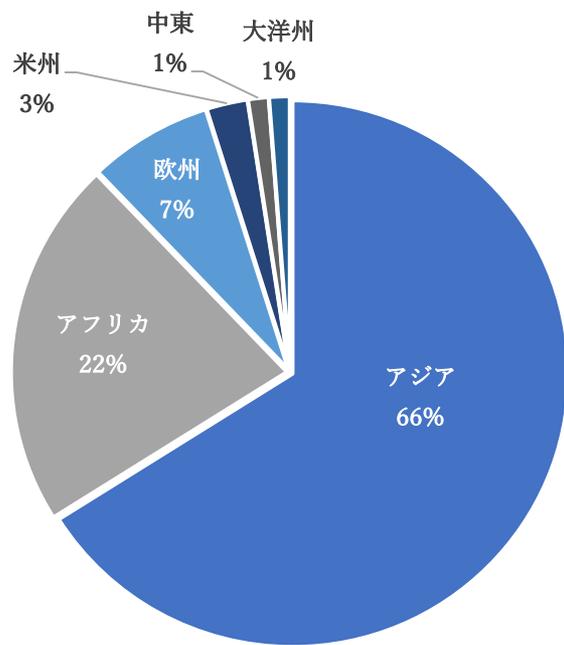
参加者属性

N = 162

第13回アジア・スマートシティ会議における参加者の情報収集を行うために、参加者が事前登録フォームに入力した情報と事後に実施したアンケート調査の情報をまとめました。



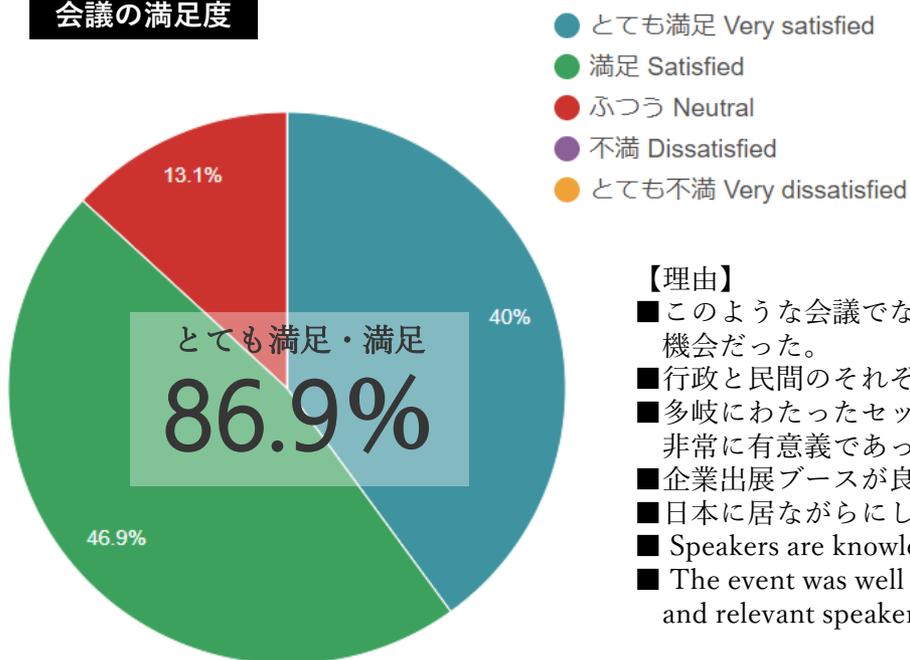
海外からの来場者



参加者アンケート結果

N=162

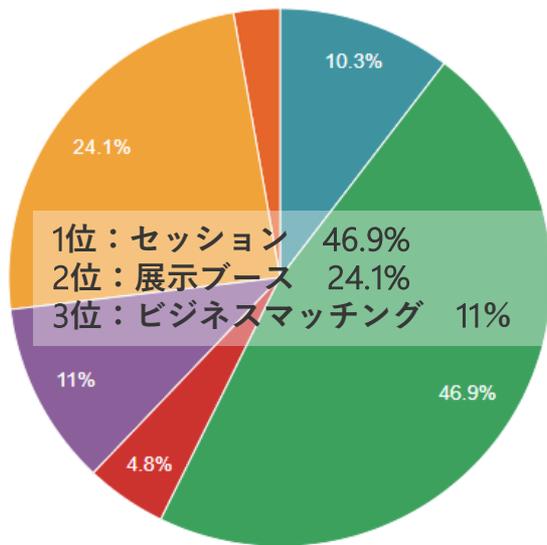
会議の満足度



【理由】

- このような会議でないと繋がれないアジアの都市との交流でき、大変貴重な機会だった。
- 行政と民間のそれぞれの立場からの意見、相互協力についての意見が聞けた。
- 多岐にわたったセッションの一つ一つが興味深い掘り下げをしていて、非常に有意義であった。
- 企業出展ブースが良かった（協業を含め今後の参考になった）。
- 日本に居ながらにして、海外の方々の意見や議論を聞くことができたため。
- Speakers are knowledgeable and provide insightful information.
- The event was well organized. The topics were interesting with competent and relevant speakers. the conference venue and facilities were excellent.

印象に残った内容

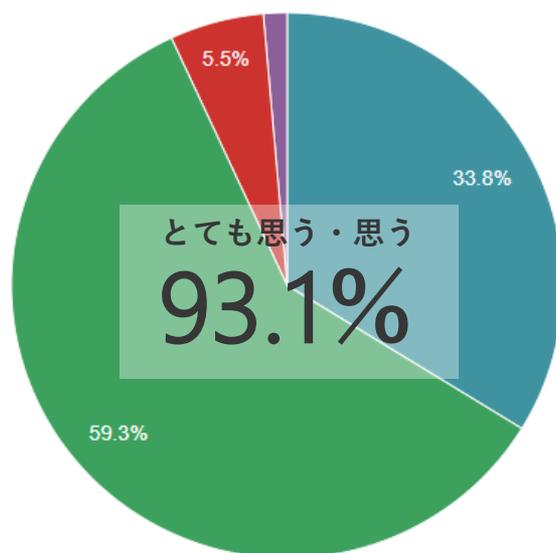


- Keynotes
- Sessions
- Pitch Stages
- Business Matching
- Exhibition
- Attraction

【理由】

- ブースに訪れた各国の参加者に当社の技術と製品を披露でき、ビジネスチャンスの創造機会になったこと。
- 多岐にわたるトピックを網羅的にカバーしたセッションプログラムであり、先端の技術者の生の声が聞けた。
- アフリカビジネスセッションのスピーカーの顔ぶれが素晴らしかった。
- テーマ別のビジネスネットワーキングが大変有意義だった。ビジネスのチャンネルを広げることができた。
- 様々な企業が会議のテーマにあわせてユニークな出展をしており、学びが多かった。

ビジネスや活動の発展につながるきっかけになったと思うか



- とても思う Strongly agree
- 思う Agree
- 思わない Disagree
- まったく思わない Strongly disagree

【理由】

- 関連業界の最新動向に触れることができたから。
- 会社の事業領域に近い水、エネルギー、モビリティ事業分野であらたにアジア、アフリカ市場へ進出するヒントを得られた。
- ランチミーティングでラフな意見交換を行うことが出来たため。
- 来浜した海外都市・企業と出展企業のビジネス面談が叶った。
- 東南アジアだけでなく、アフリカ各国からも多くの来訪者があり、自社の商品のポテンシャルを違う視点から確認できた。
- It was beneficial for our implementation as we had the opportunity to visit and learn about various products and technologies from Japan that can be adapted for our city.

出展者の声

- 当社の希望する面談先の都市をアレンジいただき、大変効果的な展示となりましたことを感謝したい。
- 立食形式のランチミーティングでは、諸外国の方々と気さくに協議することができました。ブースで興味を持った方と話をする一方、能動的に接触する場があったことはよかった。
- 今回は多くの企業の方にブースを訪問して頂きました。その中でも共同で事業実施する提案もあり、前向きに検討している。
- 出展者・来場者の目的が一致しているので、とても活発な意見交換があった。また、出展者間での情報交換が数多くできてよかった。
- 事業領域で協働できる相手先が見つかった。
- プレゼンさせていただく機会を得た。多くの参加者の方が出席されており、満足している。
- 出展ボランティアとして留学生に協力いただいた。学生の来場者も多く、若者に対して自社をアピールでき良い機会だった。



GALERIO企画委員会

Y-PORTセンター公民連携オフィスGALERIOでの活動活性化及び都市づくりの知見の蓄積・情報発信を推進することを目的として、令和4年に官民学の有識者によるGALERIO企画委員会を立ち上げました。第13回アジア・スマートシティ会議の政策対話セッションは、GALERIO企画委員会にて企画しました。横浜市は、引き続き国際機関や学術機関等と連携し、組織の壁を越えてアジアにおける持続可能な都市の発展に貢献してまいります。

[構成メンバー (50音順)]

アジア開発銀行研究所 所長 園部 哲史氏

独立行政法人国際協力機構 横浜センター (JICA横浜) 次長 植木 雅浩氏

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事 南雲 岳彦氏

公益財団法人地球環境戦略研究機関 都市タスクフォースプログラムディレクター 片岡 八束氏

世界銀行東京開発ラーニングセンター 上級都市専門官兼TDLCチームリーダー クリストファー・パブロ氏

一般社団法人YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE 代表理事会長 今富 雄一郎氏

横浜国立大学 名誉教授 佐土原 聡氏

横浜市立大学 国際教養学部・大学院都市社会文化研究科 教授 中西 正彦氏

横浜市国際局 グローバルネットワーク推進部長 富岡 典夫



**Asian Cities Together
for a Greener Future**

